

平成 24 年度 第 2 回 One Book One OSAKA 事業運営委員会議事録

1. 日 時 : 平成 25 年 3 月 26 日 (水) 午後 1 時 30 分～3 時 15 分
2. 場 所 : 大阪市立中央図書館 5 階 中会議室
3. 出席者 : 平成 24 年度 One Book One OSAKA 事業運営委員
4. 会議内容

●中央図書館館長より挨拶●

運営委員をはじめボランティアのみなさまに読書支援に尽力していただいていることへ感謝。子ども運営委員にも感謝。24 年度については投票を実施していないが、関連イベントを実施し、多数の参加者を得た。25 年度からは市費での財源はなくなったが、市費以外での財源を獲得することで事業を実施することになった。第 2 次大阪市子どもの読書活動推進計画が策定され、ますます読書活動の重要性が増している。運営委員会は今回で最後だが、今後は実行委員会ではみなさまにご協力をお願いしたい。

- ・ 委員紹介
- ・ 議事

(1) 「大阪市 One Book One OSAKA 事業」について

- ・ これまでの経過について

24 年度は投票の取り組みはなし。西淀川区のみ “One Book One 西淀川” を実施。

各区での絵本講座・世代間交流事業・絵本展等の関連イベントの実施、

11/26-27 おまえうまそうだなを楽しむ絵本展、

12/15 宮西達也講演会開催、12/18 実行委員会開催など

(One Book One OSAKA NEWS 20 号～23 号 参照)

⇒大阪市立図書館ホームページ(One Book One OSAKA NEWS)

をスクリーンで確認。

- ・ 残された個別課題について

★投票用紙にかかれたお気に入りの理由を紹介する手段の検討

(お気に入りの絵本とセットでの投票用紙展示、ホームページでの紹介等)

⇒継続 (お薦めの投票用紙を選ぶ作業を各館で実施する等検討)

★開票作業の簡略化、One Book One ○○区の実施

⇒集計作業や公開したいおすすめ理由の選別など各区での実施を検討

★トップ 100 ランキングを公開しているが、絵本表紙画像をつけ、OPAC の資料詳細や所蔵画面へ遷移出来ないか？

⇒移行後のシステムで再検討。

⇒第4回の投票用紙に掲載する絵本については、出版社の許諾済み。

図書館ホームページ等への掲載も可能になっている。

★ネット投票について

⇒府立中央図書館の協力を得て実施予定。本市でも新システムに移行後、実施を目指す。

★投票用紙・投票箱の新規配布先の開拓について

⇒書店商業組合等へ協力依頼中。

★読書マップ

⇒各区でも順次、作成・配布。

(2)One Book One OSAKA事業実行委員会について

- ・ 12/18（火）実行委員会報告 参照

実行委員会規約を確定。

委員会の互選により役員を選出。

実行委員会は概ね年2回開催を想定。

実行委員会の出席者は、団体の代表者でなくとも可、毎回メンバーが変わっても可。

現在14区から19の団体・個人が登録。

府立中央図書館も事務局として参加。

財源については、広告掲載ではなく協賛金を集める方向で、企業・団体への協力依頼を今後も継続していく。

- ・ 次年度のOne Book One OSAKA投票用紙案

⇒投票用紙デザインについては3案提示。それぞれの長所をとって集約。

絵本候補リストに関係なく、好きな絵本を自由に書いてもらうというのを全面に出すほうが良いという意見と、絵本の表紙画像掲載のフルカラー面を目立たせたほうが興味を示してもらえるとという意見があった。リストのトップに自由投票枠を設定。

⇒投票用紙の裏表について、カラーの絵本表紙画像にインパクトがあり、パンフレット架で手にとってもらえる可能性が高いことを期待して、リスト側を表として掲示する方向で。

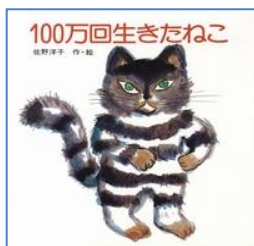
⇒「大阪」の絵本などテーマを絞って取り組むべき等の意見もあったが、実行委員会発足後、初の投票であり、今回（4回）から府立中央図書館も参加するため、原点回帰で、テーマを決めないことになった。

⇒リストについては、第1～3回の投票結果トップランキングをもとに作成。単行絵本として得票多数の「はじめてのおつかい」「ぼちぼちいこか」等も加え、昔話絵本もリストに入っていた方がよいとの実行委員からのご意見により「ももたろう」を加えた。

⇒第1～3回のOne Book絵本については、候補番号なしで掲載。

(3) その他

- ・平成 25 年 3 月 26 日（火）11 時～12 時半 子ども運営委員会
子ども運営委員長・副運営委員長より
 - ・人前で話したり、絵本を読んだり、すごく勉強になった。自分自身とても成長出来たと思う。絵本は素晴らしいものだ実感。3 年間の活動だけではもったいなく、今後も何らかの形で、本事業に関わってゆきたい。
 - ・投票用紙を絵本の楽しいリストだと思って、たくさんの人に手にとってもらえることを期待している。子ども運営委員会で出た投票用紙に関する意見も実行委員会に託したい。
-
- ・平成 25 年 4 月 27 日（土）14 時～15 時半 （子ども読書の日記念事業）
（中央図書館 当日先着順 300 人）



『わたしが死ぬこと、どう思ってるの？
ドキュメンタリー映画「100万回生きたねこ」を撮って～』
小谷忠典監督が撮影にあたってのエピソードや絵本作家佐野洋子さんとの思い出について語る。

⇒これ以外にも、各区で工作教室、おはなし会等を企画中。
詳しくは図書館のホームページ>イベント情報>子ども読書の日記念事業を

【各運営委員からのご意見・ご感想】

- ・所属の絵本の会は、実行委員会にも入っている。1冊を決めていくまでの過程を大切に
する取り組みを大事にしていきたい。
- ・子どもが本棚から1冊を取り出す勇気を持ってもらうために、今後もささやかな手助け
をしていきたい。
- ・「ももたろう」が投票候補リストに入っているのが嬉しい。こどもに語り継ぐべき昔
話があと2～3冊入ってもいいとさえ思う。
- ・実行委員会には登録していないが、ボランティアとして絵本の読み聞かせなどで、子
育て施設に出向いた時など、One Book One OSAKAのPRには協力していきたい。
- ・本事業の継続を目指し、運営委員会から実行委員会へ移行するなど力強く感じている。
本日の運営委員会での報告や議論等を、区に持ち帰ってしっかり伝えたい。
- ・One Book One OSAKA 事業を3年間続けてこられたことに感無量だ。とりわけ、子ども運営
委員会の存在が素晴らしかった。3年の間にどんどん成長して、周りの期待以上の力を発揮
してくれて嬉しい。実行委員会になっても、今後も子どもの力を借りることができればと願
う。
- ・もっと地域から発信して、One Book One OSAKA 事業を盛り上げていきたい。

- ・第4回投票用紙の絵本リストを見ていると、おはなし会で読んでこなかった絵本も結構含まれている。今後は、もっとリストの絵本も読んで、子どもたちに紹介していきたい。
- ・リストに掲載された絵本を集めたコーナーを、各図書館に設置できないか。
⇒（地域図書館長より回答）リストに掲載された絵本はほとんど図書館で所蔵している。投票促進等の時機に応じてコーナーを設置することも検討するが、リストにとらわれず、投票の理念にそって、いろいろな本を紹介する姿勢でいたい。
- ・府立中央図書館の協力が得られたことが嬉しい。
- ・投票の集計に関わって、もし絵本リストの番号と絵本のタイトルを両方記入された場合など齟齬が出る可能性があるが、どう処理したらよいか。
⇒投票集計作業前に、事前に集計ルールを決める必要がある。
- ・自由記入欄でどんな本が選ばれるのか楽しみにしている。
- ・年を重ねるにつれて、素晴らしい取り組みであることを実感。ますます事業が発展していくことを期待する。
- ・大阪全体ですることによって強いインパクトを受けている。みんなの力で One Book One OSAKA 事業の形が残っていくのが嬉しい。

● 教育委員会事務局指導部首席指導主事より ●

本事業を学校での取組にどう活かしていこうか思案しながら、運営委員の皆さんのご意見を拝聴。学校図書館でもリスト掲載の絵本を購入していきたい。予算がなければ、地域の図書館から団体貸出を受けるなどして絵本を用意し投票を促す取組などが考えられる。1冊の絵本を選ぶ過程が大切で、多くの絵本に触れる機会を作りたい。大人も子どもも、絵本と触れ合うには、きっかけが必要だと思う。大阪の子どもたちは、もっと絵本にふれる必要があると感じており、学校でも One Book One OSAKA 事業の取り組みを活かしていきたい。各区での中学生対象の「子ども絵本ボランティア講座」などを見て、さまざまな取組ができる可能性を感じている。

● 中央図書館副館長より閉会の挨拶 ●

One Book One OSAKA 事業は、One Book One CHICAGO(シカゴ)を視察した、司書職員の政策提案がきっかけで始まった。図書館も、家庭も、子どもも、大人も、「絵本の力」についてよく認識しているが、全体に浸透しているかどうか。投票で選んだ本を使って、子どもたちに読み聞かせをしていくという活動が連鎖していくことで、何年後かに結実していくことと思う。実行委員会形式へと、ステージは移っていくが、回数を重ねるごとにバラエティーを持って広がっていくのが、この活動である。今後は「広げていく」ということにステージが変わっていくので、みなさんで力を結集して、事業を盛りたててもらいたい。運営委員のみなさん、子ども運営委員のみなさんのご尽力に感謝する。各区での活動にも、今後ともご協力をお願いしたい。